

令和6年（2024年）度行政評価シート【個表】 令和 6 年 7 月 29 日

評価対象事業		評価者	環境保全課長 牧野 直樹	
環境-18	鳥獣保護管理対策事業	☒ 自治事務	主管課	環境保全課
		☐ 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	3-(3) 生活環境	施策の方針	3-(3)-②快適な生活環境の保全

1 事業の目的

対象	市民等
意図	野生鳥獣の適正な保護及び管理のため。
効果	傷病野生鳥獣の治療のための捕獲を行うとともに、有害鳥獣による被害発生予防、被害原因除去と再発防止に努める。

2 令和5年(2023年)度を実施した事業の概要

・野生鳥獣の保護等に関する啓発を行うとともに、傷病等野生鳥獣の捕獲及び県指定収容施設への搬送を行った。 ・アライグマ、ハクビシン、タイワンリスなどいわゆる外来動物による生態系、生活環境等の被害の防止に係る説明・指導を行った。 ・外来動物に係る被害の実地調査、捕獲の許可を行った。また、捕獲個体の処分業務を委託した。 ・タイワンリスの捕獲数が急増したため、新たな対策を検討するとともに、学識経験者に生態について確認した。	
--	--

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和5年度		令和6年度	達成度	
				指標(実績値／目標値)		指標(目標値)		
				事業費(決算／当初)(千円)		予算額(千円)		
01	野生鳥獣保護啓発事業	傷病鳥獣の保護	傷病鳥獣の保護依頼に対する対応割合(%)	100 / 0	100 / 0	100 / 0	100.0%	
02	有害外来動物等調査捕獲駆除事業	捕獲個体の処分委託 捕獲用具等の購入 餌付け防止等の啓発	有害外来動物の駆除件数(タイワンリス、アライグマ、ハクビシン)(頭)	3,123 / 20,147	1,240 / 12,105	1,240 / 17,504	251.9%	
		財源内訳	国県支出金	8,743 /	2,700	8,320		
			地方債	/				
			その他特定財源	/				
			一般財源	11,404 /	9,405	9,184		
			事業費の合計 (千円)		20,147 /	12,105		17,504
			人件費 (千円)		14,274			14,970

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	
会計年度任用職員	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、 目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、 構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	野生鳥獣保護啓発事業	適切に依頼に対応し、処理率100%を達成した。	保護した傷病鳥獣を自然に戻すことにより、生態系が保全され、もって豊かな自然環境を享受できる快適な生活環境の保全に寄与した。	全ての傷病鳥獣の命を救うことは困難であり、自然の傷病による鳥獣の死も生態系の重要な一要素であることを市民等に啓発することも必要である。
02	有害外来動物等調査捕獲駆除事業	市民の生活環境被害を防除するため捕獲駆除を実施し、目標値を超える駆除件数となった。	有害外来動物を駆除することにより、生活環境への被害を防除し、快適な生活環境の保全に寄与した。	有害外来動物は、長い時間をかけて生態系に浸透しているため、捕獲対象の有害外来動物の生息数の把握ができず、完全に排除することが困難である。

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	1 実施済み
	関連・類似する事業の統合はできないか	3 統合できる事業はない
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	3 民間によるサービスで代替できる事業はない
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	△・負担未導入 △-2 受益者はいるが、今後も公費により全額市が負担すべきものである
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	○・協働実施済 ○-2 市民等と協働して適切に事業を実施している
		協働実施済の場合のパートナー 市民等

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	☒ 拡充 ☐ 改善・変更 ☐ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 休止・廃止
最終的な目標である有害外来動物の完全排除は困難であるが、有害外来動物による生活環境被害は市内全域で発生しており、被害の未然防止及び軽減化を図るため、継続的に駆除を実施する必要がある。また特定外来生物のうち、捕獲数の増加が顕著であるタイワンリスについては、これまで実施してきた「生活被害防除」に加えて、市が主体となって捕獲する「計画的防除」を実施することで、捕獲圧力を一層高める。	

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	有害外来動物の駆除件数(タイワンリス、アライグマ、ハクビシン)						単位	頭
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
有害外来動物の駆除に取り組むことにより、有害外来動物による被害を未然に防止し、被害を軽減化する事業の効果を測るため。	目標値	1,240	1,240	1,240	1,240	1,240	1,240	
	実績値	1,616	1,417	1,468	3,123			
	達成率	130.3%	114.3%	118.4%	251.9%			

指標(単位)							単位	
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	令和5年度における有害外来動物の駆除件数(タイワンリス、アライグマ、ハクビシン)							
団体名	鎌倉市	横須賀市	逗子市	三浦市	葉山町			
他市実績	3,123	4,670	822	479	1,111			

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	
--------------------------	--